顔の見える木材での快適空間づくり事業のうち A材丸太を原材料とする構造材等の普及啓発

事業実施主体
木曽川流域木と水の循環システム協議会

【テーマ】木曽川流域材で構造から内装、家具までトータルでのA材丸太利用の提案と普及啓発

背景と目的

【背景】
・木曽川流域の森林が抱える課題として人工林の高齢級化、すなわち大径化の進行
・大径材の活用には、A材丸太の需要創造（量的活用）と高付加価値化の推進が必要
・本協議会では、信頼のブランド「木曽川流域材」としてJAS制度にのっとった品質の高い構造材の供給体制の構築、普及に取り組み、一定の効果
・今後、構造材だけでなく、内装材、家具等も含めたパッケージ提案とその普及啓発が課題
【目的】
・そこで、内装材、家具などを試作し、パッケージによるトータルでのA材丸太利用を提案するとともに、流域体感ツアーなど対象者に合わせた普及啓発ツールを開発し、A材利用の意義を伝達。バランスのとれた木材需要の創出、山元への利益還元の確保につなげることを目的とする

対象とするA材丸太を原材料とする付加価値の高い木材製品

〇品質の確保されたJAS構造材に関しては、継続して利用拡大を図る
〇A材丸太を原材料とする付加価値の高い内装材、家具等を試作
〇トレーサビリティのある木曽川流域産地ブランド材（例えば、国有林「マルコウ マルコク キソヒノキ」や「東濃檜」など）を活用（付加価値）
〇表層圧密テクノロジー「Gywood」を活用した内装材、家具
〇針葉樹のメリットを損なうことなく、表面の柔らかさといったデメリットを克服した無垢の新素材で「軽いのに固い」など7つの物理的特長、大径材から取る美しい板目など5つの意匠的特長を持っている（付加価値）

写真・図等

実施体制・連携グループ

〇本協議会では川上から川下までの相互連携体制が確立
〇有馬孝禮東京大学名誉教授を代表理事として、流域の木材生産・加工・流通・住宅建築に関わる企業、学識経験者及び流域の地方公共団体など約90者が参画し、連携して事業を行う
〇申請事業の進行管理は、（一社）木と住まい研究協会中部支部

事業内容（利用拡大に向けた具体的な実施項目）

【事業内容】
①森と木の体感ツアー等による普及啓発
・ 木曽川流域の森林内で林業、素材生産からものづくりまでを体験できるツアーの開催
②製品の試作
・協議会の開催（試作製品の検討委員会の開催）
・木曽川流域産地ブランド材（マルコウ マルコク キソヒノキ（※）や東濃檜等）と表層圧密テクノロジー「Gywood」のコラボ製品開発（内装材や家具等）
（※）平成25年度より木曽谷の国有林野から生産される林齢80年生以上の高齢級人工林ヒノキ
・グループ連携によるトレーサビリティの担保された製品
③PRツール（木曽川流域材の循環利用に対する映像制作等）の作成による普及啓発
・JAS構造材や表層圧密テクノロジー「Gywood」の生産を例に伐採から製材、加工まで職人（作り手）の想いが施主（エンドユーザー）に伝わる内容
④展示会の出展による普及啓発
・木曽川流域のJAS構造材、今回、試作した製品（内装材や家具等）の展示。構造材から内装材までトータルでのA材丸太利用の意義を伝える内容

【事業効果】
・JAS構造材の利用促進と表層圧密テクノロジー「Gywood」の活用で木曽川流域のA材丸太の需要拡大に寄与
・東濃や木曽など、全国的な知名度のある産地とコラボし、JAS材、表層圧密テクノロジー「Gywood」の意義を広めることで、全国の産地でA材丸太利用の活路を開く

スケジュール	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
	検討委員会	製品試作、流域体感ツアー			流域体感ツアー、映像制作、普及イベント			報告書作成